

「放射能」がどれくらい危ないか——は、正確には分かっていません。

藤井聡

「放射能」なんて言葉を耳にしても何のことかよく分からない人が多いと思います。でも、それが、どうやらこないだの原発事故でたくさん出て、色んな所に撒き散らかされたようだ——ということ、みんな知っているのではないかと思います。そしてあれだけテレビで大騒ぎしているのですから、なんだかメチャクチャ危ないもので、何かあったら取り返しをつかない事になるんじゃないか——とも感じているのではないかと思います。

とはいえ、ニュースや新聞で、「どこそこでこれだけの放射能が見つかった！」と報道されているレベルの放射能が「どれくらい危ないのかについては、やっぱり良く分からない」という風にも感じて

ているのではないかと思えます。では、そんな詳しい事は、「専門家」なら分かるのかと言うと——残念ながら「専門家にもよく分からない」のです。そう言うときみんは「えっ！専門家でもよく分からないのおっ！」とびっくりするかも知れません。でもそれは、残念ながら本当なのです。

それでは、専門家には「何が分かっていて」「何が分かっていない」のか——について、お話したいと思います。

まず、「もの凄くキツイ放射能」（正確に言うと、非常に高いレベルの放射線を出す放射能）というのですが、ここでは、そんな事は分かんなくても大丈夫です！（がそばにあったら、それは大変です。二度と直らない病気に

なったり、死んじやったりするところが分かっています。

でも、「もの凄くよわち——い放射能」がそばにあったとしても、何てことはありません。実はその程度のもは、私たちの暮らしの中にも普通にあったりするものですから、弱ければ全然問題無いのです。例えば「お醤油」は、ちよこつと食べても、料理がおいしくなるだけで、全然体に害は無いです。すよね。でもペットボトルがぶ飲みなんてしてしまえば、大変な病気になるったり、死んじやったりすることが知られています。つまり、何でもかんでもある程度のレベルまでなら問題ないけど、あまりにたくさん採ってしまうと大変な「毒」になってしまうのです。

放射能も、それと同じなのです。

## 「放射能」がどれくらい危ないか——は、正確には分かっていません。

藤井聡

そんな事を言うのと、「そんなの当たり前じゃないか。だから、専門家の人に、どれくらいなら安全なのかを聞いてるんじゃないか！」と、思うのではないかと思います。

だけど、一番知りたいまさにその事が、専門家にも分からないのです。なぜなら、それを知るには色々な「実験」が必要なのですが、そんな実験、やって良い訳ないですよね（分かりますよね——）。だから、これまでの限られた事故の例などを参考に、大雑把に推察する事しかないのです。

そしてそんな中で「政府」は「いくらなんでもこれなら大丈夫だろう」というレベルを大雑把に決め、「それ以下ならとりあえずOK」としているのです。何ともいい加

減な話ですが、専門家でも分からないのですから仕方ありません。

ところでもし、この政府が安全だと言うレベルの放射能で大変な事故が起きてしまえば、政府はもの凄く国民に怒られてしまいますよね。だから政府は国民に怒られないように「メチャメチャ安全な基準」を設定しています（専門家の中にはそれはちよつとビビリ過ぎだろう、と言う人もたくさんいる程です）。だから、政府の基準をクリアしているなら、まず大丈夫ということができるでしょう。

でも！残念ながら、詳しくは専門家にも分かかっていないのですから「絶対に大丈夫」とは断定できないことも忘れてはいけません。でもでも！よくよく考えれば道

を歩いていけばクルマにひかれて死ぬかもしれないし、何を食べても何だか恐ろしいウイルスが付いているかもしれない中で、わたしたちは暮らしている事も忘れてはなりません。つまり、私たちの回りには「危険が一杯」なのですが、そんな事いちいち気にしてたら、何も出来なくなるのです。だからそれを覚悟で生きているわけです。そんなこんなを全てひっくるめて考えると、結局は「政府の基準をクリアしていれば、まず大丈夫だろうし、ちよつとくらいクリアていなくたって多分心配ないんだろうなあ——」と考える程度の心持ちが、ちよつどよい「さじ加減」なのかもしれません。みんなも一度、そんな事をちよつと考えてみてください。